

点数 各項目20点満点

No	タイトル	投稿者	評価者	怖さ	鋭さ	新しさ	ユーモア	意外さ	合計	書評
308	蛻(もぬけ)	春粉亭(ぱるふんてい)きなこ	大赤見ノヴ	16	16	17	16	17	82	砕かれた表現と構成の上手さが相まって非常に面白い反面、少し個性が出過ぎて読みづらい部分もある作品でした。ただ日本家屋の表現を天道道場にしたのは伝わる人には一瞬で伝わる良い表現でしたね。(世代を選ぶとは思いますが)儀式や設定は非常に興味深く読ませて頂きました。最後に呪われ感や化け物チックな描写があると短編映画の良い原作になるのではと思いました。
319	光バイト	にる	大赤見ノヴ	16	16	16	16	16	80	現代の闇に通づる光に見えたバイトという切り口がやはり面白いですね。ただ、八日と二十日と場所の偶然が都合が良すぎてそこにもう一個アイデアが欲しかったとは思いました。切り口が面白いだけにそこだけが浮いてる感じに思えました。
354	令和都市伝説「ぬる様」	半分王	大赤見ノヴ	16	16	16	16	16	80	某ゲームを連想させるような媒体の中で都市伝説が準えられていく。まさに令和の都市伝説という感じで洒落怖を展開している雰囲気がとても良かったです。 あえてCの顛末を描かないのも全体を通して見ると最適解の様に感じます。静寂や無に通づる表現だと思いました。
379	おとうとのともだち	かめ	大赤見ノヴ	16	16	16	17	16	81	非常に秀逸な設定だと思います。ヨモツヘゲイを思わせる夢の設定、またそれらが友人から聞かされた事を用いた復讐めいたモノ。 最後に昔の友達と飲みに行くとありますですが、その友達は「ともだち」?かと考えてしまいます。また異形の者の事などを不鮮明にして記憶できないのは何故だろう?夢から來てるモノだから?など考察も色々できますね。
394	終了します	カエル文二	大赤見ノヴ	16	15	16	16	16	79	昔から語られる怪談にAIをうまくミックスした作品だと思いました。ただ一点、怖さの方に新しさが良くも悪くも無かったのが残念です。展開含めてもう一段階踏み込むのがあればと感じました。
407	生靈が死靈を食らうとき	垣坂弘紫(かきさかひろし)	大赤見ノヴ	16	16	17	17	16	82	良い感じで謎と不気味さが残る作品でした。全てを説明しない面白さが残る作品です。他作品に比べると短く、必要最低限の描写で物語を纏めているのが良いと思いました。
446	赤い家の贋	宿屋ヒルベルト	大赤見ノヴ	17	16	16	16	16	81	まさに令和の洒落怖の様な作品でした。怪談っぽさが怖さを引き立てており、面白かったです。ただ目新しさなどや切り口が少なく感じもう一步加点に至らないと感じたのが惜しいですね。
473	あとしまつ	半分王	大赤見ノヴ	16	16	17	17	16	82	風習に縛られた人々の表裏が描かれていて非常に読んでいて面白かったです。設定やストーリーを鑑みると、おそらくもっと字数が許されれば色々と書き足りない部分があったのではと思える作品でした。 削ぎ落とされた部分も読んでみたくなります。 バッドエンド気味のグッドエンドでしたが、分岐が色々とあるゲームの原作みたいな物語だと感じました。
455	ジユースのおばさん	誠也 としひら	大赤見ノヴ	15	15	16	16	15	77	リアルな怖さがある作品でしたね。ヒトコワの執念の行き着く先だなと思いました。真実味がある分、もう少し構成と脚色次第で怖さがグッと出てくるのではと思いました。 ジユースのおばさんをピックしてくるのは良い目の付け所ですね。
509	秋霖	アリアの流星群	大赤見ノヴ	16	16	16	17	16	81	坂本さんが良い味出していますよね。簡潔ながらも上手くまとまったミニドラマの様な作品です。余韻も含めて良い作品だなと思います。
542	誰かのためにできること	半分王	大赤見ノヴ	16	16	17	16	17	82	なんとも言えない読後感の作品ですね。生き靈が死靈に変わってしまい、対処が無駄になってしまいう事がキーとなる新しさが面白いと思いました。登場人物の背景が上手くまとめられ、愛着や喪失感を味わわせてくれるのが凄いなど感じました。